

平成30年度 押原きつず 自己評価

この評価は、「保育環境評価スケール<乳児版>」(ITERS-R 日本語版)を基に全職員が話し合いを重ねて評価しました。400項目以上に及ぶ評価内容を点数化しています。点数は1点～7点満点です。

空間と家具	室内空間	7
	日常のケアと遊びのための家具	4
	安心して落ち着ける空間	4
	室内構成	5
	子どもに関係する展示	3.5
個人的な 日常のケア	登園／降園	4
	食事／間食	7
	午睡	7
	おむつ交換／排泄	4
	保健	3.5
	安全	4
聞くこと 話すこと	言葉の理解を助ける	7
	言葉の使用を助ける	7
	絵本の使用	7
活動	微細運動（手や指を使う）	6.5
	粗大運動（体を動かす）遊び	2.5
	造形	2
	音楽・リズム	3
	積み木	3
	ごっこ遊び	3
	砂・水遊び	7
	自然・科学	4
	多様性の受容	1
相互関係	遊びと学びの見守り	7
	仲間どうしのやりとり	7
	保育者と子どものやりとり	7
	望ましい態度・習慣の育成	5
保育の構造	日課	7

	自由遊び	5.5
	集団活動	2.5
保護者と 保育者	保護者との連携	5
	保育者の個人的ニーズへの対応	1
	保育者の仕事環境	1
	保育者間の意思疎通と協力	6
	保育者の継続性	4
	保育者のスーパービジョンと評価	3
	保育者の研修機会	2.5
項目別点数の 平均	空間と家具	4.7
	個人的な日常のケア	5
	聞くこと話すこと	7
	活動	3.5
	相互関係	6.5
	保育の構造	5
	保護者と保育者	3.2

<講評>

今回の自己評価は0歳児～1歳児グループと2歳児グループのそれぞれで評価し、その平均値をまとめました。年齢によって同じ項目でもできていること、できていないことがありました。共通して言えることは、乳幼児期に大きく発達する言葉への意識（保育者の声掛けや絵本を使用した保育など）や友達同士の関わりを意識した保育はよくできていましたが、活動における多様性（異文化・多人種への意識をもたせるような関わり）が不足していました。また、保育者の仕事環境（就労環境など）についても見直す必要がみえてきました。

今後も当園では、園内研修や外部研修、そして毎日の保育の振り返りを通して保育の質を高めていけるように努めてまいります。何か気になる点やご意見等ありましたら職員にお伝え下さい。よろしくお願い致します。